



4月28日(火)

## 麦と毒麦

聖書朗読 マタイの福音書 13:24~33

だから、収穫まで、両方とも育つままにしておきなさい。収穫の時期になったら、私は刈る人たちに、まず、毒麦を集め、焼くために束にしなさい。麦のほうは、集めて私の倉に納めなさい、と言いましょ。』」  
マタイ 13:30

農業に携わる人や庭仕事をする人は誰でも知っていますが、雑草は実に厄介です。あっという間に増えてはびこり、せっかく植えた植物をダメにしてしまいます。イエス様が語られたこの単純な話から、雑草が当時も現代同様、悩みの種だったことがわかります。

すべてのイエス様のたとえ話がそうであるように、この世の話には霊的な意味があります。麦と毒麦を選別するというのは最後のさばきの象徴です。このたとえ話によって私たちは、正しいことと間違っていることがあること、私たちは自分たちの行いに責任があること、やがてさばきの時が来て、神様のために生きた者と自分のためだけに生きた者とは選別されることを思い起こします。

さばきの時が来るまでは、私たちはたとえ『毒麦』に囲まれていようとも、神様に忠実に成長するように求められています。神様は忍耐強いお方で、私たちが悔改め成長するように待ってくださっています。私たちがすることは、毒麦を抜くことではなくて、時期が来たら収穫をもたらしてくださると信じて、イエス様に根差していることです。

讃美歌 422 われらたがやし 種をまけど

祈り お父様、あなたが望まれるような者になれますように。そして、収穫の日を待ち望むことができますように。イエス様のお名前によって。アーメン。



アラバマ州 パイクロード / フィリップ・アイクマン

4月29日(水)

## かわいそうに

聖書朗読 マタイの福音書 15:29~38

疑いを抱く人々をあわれみ、火の中からつかみ出して救い、またある人々を、恐れを感じながらあわれみ、肉によって汚されたその下着さえも忌みきらいなさい。

ユダ 22~23

イエス様はパリサイ人たちや律法学者たちのようなユダヤ人たちに受け入れられなかったので、エルサレムを去って異邦人の地におられました。ガリラヤ湖のほとりでは少し前に耳が聞こえず口のきけない人を癒やされたことがありました。(マルコ 7:31~37) イエス様はそのことをだれにも言ってはならないと命じられましたが、人々はますます言い広め、そのニュースは至る所に広まりました。大勢の群衆が足の不自由な人、目の見えない人、口のきけない人、手足の曲がった人、そのほか多くの人たちをみもとに連れてきました。イエス様は彼らを皆癒やされ、群衆はイスラエルの神をあがめました。

何と対照的でしょう！ 異邦人たちはイスラエルの神をあがめました。聖書を持っていたユダヤの指導者たちは、イエス様の癒やしのみわざをサタンの仕業だと言って非難したのです。(マタイ 12:22~24)

イエス様はどのようなお気持ちから群衆を癒やされ、男四千人とその他女と子どもに食べ物を与えられたのでしょうか。『かわいそうに。』羊飼いのいない羊の群れのような群衆をご覧になる度に、イエス様はかわいそうにと思われました。

あなたが行動する動機は何でしょうか。イエス様は今でも傷つきたいのちを癒やしておられます。私たちは祈りと愛と私たち自身の証しによって、彼らをイエス様のもとへ連れて行く者となれるのです。

讃美歌 239 さまよう人々 たちかえりて

祈り 主よ、世界には傷ついた人々があふれています。イエス様のように、憐みの心をもって、彼らをイエス様のみもとに連れて来ることができますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 モントゴメリー / デール・フォスター

4月30日(木)

## 偉い人とはだれか

聖書朗読 マタイの福音書 20:20~28

善を行なうことと、持ち物を人に分けることを怠ってはいけません。神はこのようないけにえを喜ばれるからです。  
ヘブル 13:16

偉大さというものはよく大きさやスキル、業績、権力などの点から定義されます。マラソンで優勝するとか、コンテストで1位の栄冠を得るとか、宇宙飛行士になるとかだと思ふ人もいるでしょう。偉業の達成を夢見することは悪いことではありません。

現代社会は権力や偉大さを求める野望に満ちています。大望を抱くことは悪いことではありませんが、本当に大事なものは、権力と偉大さをもって何をするかです。マタイ20章に出て来るゼベダイの息子たちの母は、息子たちを愛していて、彼らのために最良のことを望みました。

でも、イエス様のお考えは違っていました。イエス様は恵まれない人々の必要に目を留めて、ご自身の偉大さを示されました。病める人々を訪ね癒やされました。誰にも構ってもらえないような人と一緒にいらっしやいました。飢える者に食べ物を与え、目の見えない人の目を開け、耳の聞こえない人の耳を癒やし、さらにもっと多くのことをなさいました。

イエス様は、仕えることによって偉くなる方法を教えてくださいます。私たちが本当にイエス様に従いたいと思うなら、お仕えしましょう。病める人を見舞い、飢える人に食べ物を与え、愛と憐みを示しましょう。仕える者になることが、本当の偉い人になることなのです。

讚美歌 461 主われを愛す

祈り 天の父なる神様、イエス様こそ仕える者の完璧なお手本です。私の心をイエス様と同じ謙虚さとあわれみの心で満たしてください。私の行いのうちにあなたの愛を反映し、しもべとなることができますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

オレゴン州 セイラム / キャサリーン・クナウフ

5月1日(金)

## 思い通りにいかなくても

聖書朗読 マルコの福音書 5:25~30

人は心に自分の道を思い巡らす。しかし、その人の歩みを確かなものにするのは主である。  
箴言 16:9

今日はこれこれのことをしようと1日の計画を立てていたのに、思わぬ妨害に、もしかすると神様からの“待った”かもしれないが、遭ってしまったということが今まで何度もありませんでしたか。そういう妨害は時として私たちが立てていた当初の計画より良い結果をもたらすということがあります。実は今日のお話で正にそういうことが起きたのです。

妨害に遭った時、イエス様は会堂管理者ヤイロの娘を癒やすために彼の家に向かっているとどこでした。十二年の間長血をわずらっていた女の人が恐る恐る手を伸ばしてイエス様のお着物の裾に触れたのです。イエス様はすぐにご自分のうちから力が出て行ったことに気付かれ、「だれがさわったのですか」と単純にお聞きになりました。女の人が名乗り出ると、イエス様は彼女を力強いお言葉でもって安心させてくださいました。「あなたの信仰があなただけを直したのです。安心して帰りなさい。」と。

イエス様の奇跡の半分以上は何かを中断して起こりました。イエス様はご自分の使命をご存じでしたが、予期せぬ出来事にも進んで対応されました。中断されたことにはがっかりするのではなく、良い機会だと思われたのです。

このことから私たちが学ぶことができます。私たちの人生における妨害は、その瞬間、私たちが神様の御手や御声となり、神様の愛を示すようにという神様の招きなのかもしれません。救い主イエス様があわれみをもって応えるために宣教のみわざを一旦止められたのなら、私たちがそうできるでしょう。

聖歌 259 きみはわれのまぼろし

祈り お父様、人生の妨害の中にあなたの御手を見ることができますように。ご栄光を表わすために私たちを驚くべき方法でお用いください。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 ラボック / シェリー・リームズ

5月2日(土)

## 身軽に旅行する

聖書朗読 マルコの福音書 6:7~13

また、彼らにこう命じられた。「旅のためには、杖一本のほかは、何も持って行ってはいけません。パンも、袋も、胴巻に金も持って行ってはいけません。

マルコ 6:8

旅行に出かける時、どのくらいの荷物を持って行きますか。最近、空港に行ったことがおありなら、大きなスーツケースをいくつも抱えて通る人たちをおそらくご覧になったでしょう。かと思えば、機内持込み手荷物だけで歩いている人もいます。私たちは時々必要以上のものを詰込みます。2日間の旅行に6個のスーツケースが本当に必要でしょうか。

今日の箇所、イエス様は弟子たちをふたりずつ遣わし、身軽に旅行するようにと命じられました。予備の靴は持たず、金も持たず、杖1本だけ持って、服は背負って、履き物ははくように。どうしてでしょうか。イエス様は弟子たちに自分たちの持ち物を当てにするのではなくて、神様が備えてくださることを信じ頼ってほしかったのです。

神様のために生きるという私たちの人生の目的がはっきりしているなら、人生のための準備は身軽なものになるでしょう。抱えている荷物が少なければそれだけ、イエス様に忠実に従うという一番大事なことに集中することができます。身軽に生きて、神様に深く信頼し、神様が与えてくださるものをお受けしましょう。

讃美歌 294 みめぐみ ゆたけき

祈り 主よ、あなたがくださった多くの物質的恵みを感謝します。今あるもので満足し、あなたが備えてくださることを信頼し、私の人生に対するあなたの目的を果たすことに集中できますように。イエス様のお名前によって。アーメン。



テキサス州 ノース・リッチランド・ヒルズ / ロバートP・ミューレン

5月3日(日)

## まだわからないのですか

聖書朗読 マルコの福音書 8:22~26

それに気づいてイエスは言われた。「なぜ、パンがないといって議論しているのですか。まだわからないのですか、悟らないのですか。心が堅く閉じているのですか。目がありながら見えないのですか。耳がありながら聞こえないのですか。あなたがたは、覚えていないのですか。」

マルコ 8:17~18

二人の小さな女の子たちが1セント銅貨を数えていました。一人が「私は5セント持っているよ」と言うと、もう一人が「私は10セント持っているよ」と答えました。「違うよ、あなたは私と同じ5セントしか持ってないじゃない」と最初の子が言いました。2番目の子にはっこり笑ってこう言いました。「パパが今夜帰ってきたら、5セントくれると言ったの。だから、本当に10セントあるんだもん。」女の子はパパの約束を信じていました。クリスチャンが神様の約束を同じように信じるためのお手本ではないですか。

本日の聖書朗読のすぐ前の段落で、イエス様は素晴らしい奇跡を行われました。五つのパンと二匹の魚で男五千人、七つのパンと小さい魚少しで男四千人を十分食べさせました。ありとあらゆる病に侵されている何百人という人たちを癒やされました。それなのに、弟子たちはまだイエス様のみわざを悟っていなかったようです。

この後、イエス様はベツサイダでひとりの目の見えない人を癒やされましたが、その時も「まだわからないのですか」というイエス様の質問に対する答えは得られませんでした。それから、ピリポ・カイザリヤの村々へ出かけられた途中で、イエス様は「人々はわたしをだれだと言っていますか」、重ねて「では、あなたがたは、わたしをだれだと言いますか」と尋ねられました。ペテロが答えて「あなたは、キリストです」と言いました。

私たちはイエス様が神の御子だと信じなければなりません。目と耳を開け、イエス様の素晴らしい御言葉とお約束を正しく見聞きしなければなりません。決して約束をたがえることのないお方、イエス様を信頼しましょう。

讃美歌 286 かみは わがやぐら

祈り お父様、人生のあらゆる困難を通じて、あなたにお従いするために必要な信仰をお与えください。イエス様のお名前によって。アーメン。

ミシシッピ州 オリーブ・ブランチ / エディC・ルイス